

プリオン病の二次感染リスクと その対策に関する研究

研究分担者：埼玉医科大学医学部 高柳俊作

手術器具等を介したプリオン病の二次感染リスクに関してCJDインシデント委員会
の下で活動。欧米を中心とした国々の感染予防ガイドラインなども調査

インシデント事例フォロー状況

事例数	CJD診断期間	告知対象者(合計)
22	平成16年6月～令和5年6月	378

各国のガイドラインの記載状況

国名	感染予防ガイドライン	過酸化水素ガス（プラズマ）滅菌
イギリス	あり	記載のみあり
フランス	あり	過酸化水素ガス（プラズマ）滅菌器械で推奨するものはなし
アメリカ	あり	記載なし
カナダ	あり	記載なし
オーストラリア	あり	記載なし
ドイツ		なし

解 説

1. 令和6年度は新規インシデント事案が1例あり訪問調査を、インシデント委員会の下で行った。これまでに22事例がフォローアップの対象となっており、二次感染の発生はない。
2. イギリス、フランス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ドイツの感染予防ガイドラインの有無と記載状況を確認した。本邦の感染予防ガイドラインでもごく一部にしか使用を推奨していない過酸化水素ガス滅菌に関して、欧米各国でも推奨しているところが少ない現状が明らかとなった。